

# 就労移行支援事業所でのABAを用いたスキル獲得訓練

○福井 樹男（特定非営利活動法人スカイ・ラヴ 管理者/サービス管理責任者）  
田中 出（特定非営利活動法人スカイ・ラヴ）

## 1 はじめに

当法人の事業の一つとして、就労移行支援、就労継続支援B型（以下「就B」という。）、自立訓練（生活訓練）、就労定着支援の事業を行っている、スカイ・アンドロメダがある（以下「アンドロメダ」という。）。

利用者は、知的障害が約6割と一番多く、精神障害、発達障害が約3割、身体障害が約1割である。年代も10代から60代と幅広く利用されているが、20～30代が最も多い。

就労移行支援の訓練では、主にABA（応用行動分析）を用いて、スキル獲得訓練を行っている。スキル獲得の内容は利用者により様々だが、例えば、ネクタイを締める、エプロンの紐を結ぶ、仕事関係での物の名前を覚える、品出しや接客スキルを身に付けるなどがある。基本的に課題分析をして、スモールステップで一つずつできるように訓練している。

今回は、その中でも、清掃スキルを身に付け、就労に繋がった事例を発表する。

## 2 本人について

### (1) 本人の特性

- ・40代男性
- ・知的障害（療育A）、精神1級（就労移行利用当初）、ウィリアムズ症候群
- ・眼鏡が好きで、数十種類の眼鏡を集めている
- ・服装もおしゃれで、眼鏡と合わせてコーディネートするのが好き
- ・様々なジャンルの音楽が好きで、絵や詩をかくことが好き
- ・明るく思いやりがあり、誰とでも仲良くできる
- ・大きな声で気持ちのいいあいさつができる
- ・慣れない作業等、力が入りすぎてしまうときがある
- ・細かい作業が苦手

### (2) 経歴

- ・X-25～X-12年（株）おしぼりセンターで勤務
- ・X-12年 アンドロメダ就B利用開始
- ・X-3年 自立訓練利用開始
- ・X年-7ヶ月 就労移行支援利用開始
- ・X年 清掃スキル獲得訓練開始
- ・X年+1年 エル・チャレンジ<sup>1)</sup>の実習へ参加
- ・X+2年 清掃会社へ就職
- ・X+2年6ヶ月 就労定着支援利用開始

## 3 「机を拭く」スキルの獲得

### (1) アセスメント

まず、清掃スキルがどの程度あるのか、アセスメントをするために、机拭き、部屋の掃除機かけ、廊下・階段の掃き掃除などを行った。

使用した道具は、布巾・雑巾、アルコールスプレー、掃除機、ほうき、塵取り等である。

結果、それぞれ使うことはできるが、隅々までやるのが難しいという結果になった（図1）。

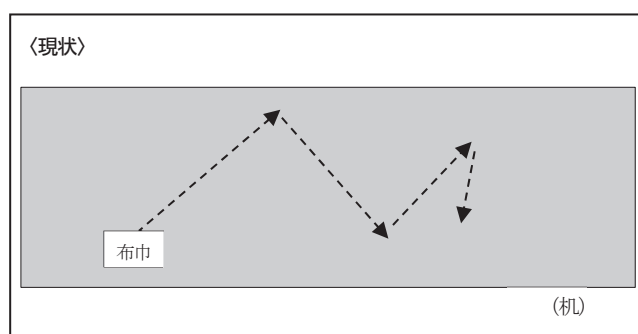


図1 机拭きの場合、まっすぐに隅々まで拭けない

### (2) 目標の設定

まずは、一番すぐにスキル獲得が出来るような机拭きからとりかかった。机拭きの目標は以下の手順に設定した（図2）。基本的には、モデリング、身体プロンプト、視覚プロンプト、言語プロンプトを使用し、エラーレスで行ったので、プロンプト数が10%以下になることを目指した。

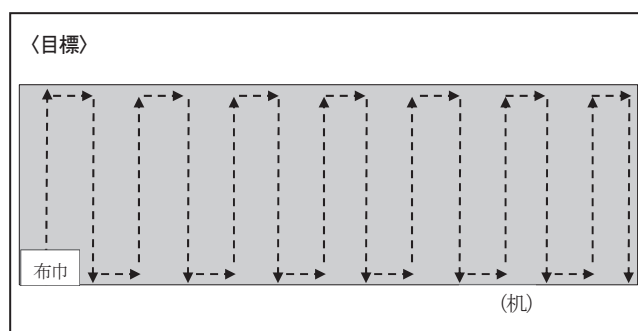


図2 目標は端からまっすぐに拭けるようになる

### (3) 強化子の設定

強化子は、本人と相談して、「1分間の休憩」にした。さらにトークンエコノミー法を利用し、1試行毎にハートマーク（♡）を1つ書き、5つになると強化子がもらえるようにした。

1試行終了するたびに、スタッフは「すごいね！がんばったね！」など褒め、スキル獲得を目指した（図3）。

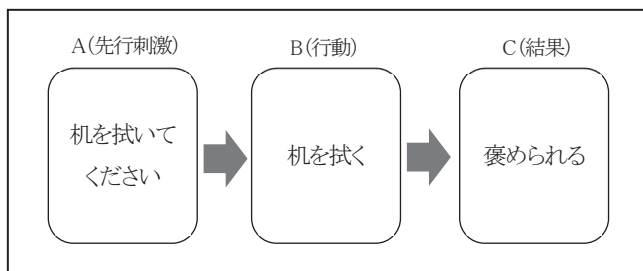


図3 スキル獲得方法〈三項随伴性〉

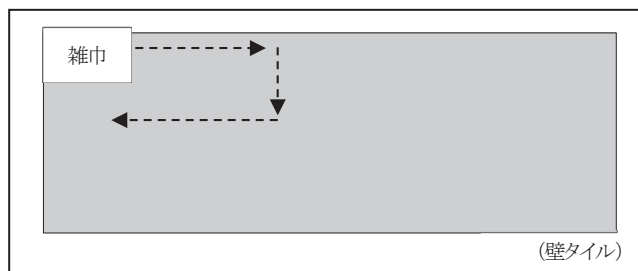


図6 右方向へどれだけ移動したか分からなくなってしまう

(4) 訓練期間

- ・約2.5ヶ月 (21日間)
- ・施行回数 309回
- ・机は一般的な長机 (サイズ1800mm×45mm)

(5) 手順

まず、最初に課題分析をして、机の下から上にまっすぐ拭き、布巾の幅を右にずらし、下まで拭く工程 (以下1往復) を身に付けた (図4)。

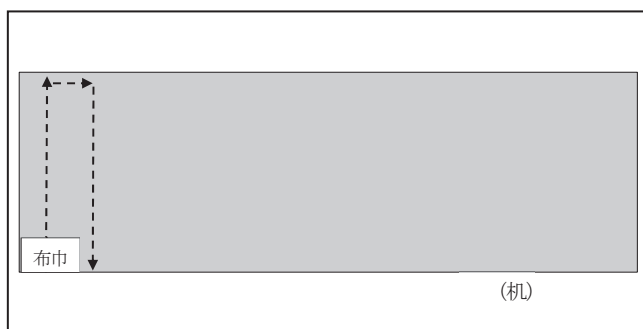


図4 まずはこの1往復の獲得を目指した

1往復ができるようになると、2往復、3往復と増やしていき、プロンプト無しで机全体 (7往復) が拭けるように訓練していった (図5)。

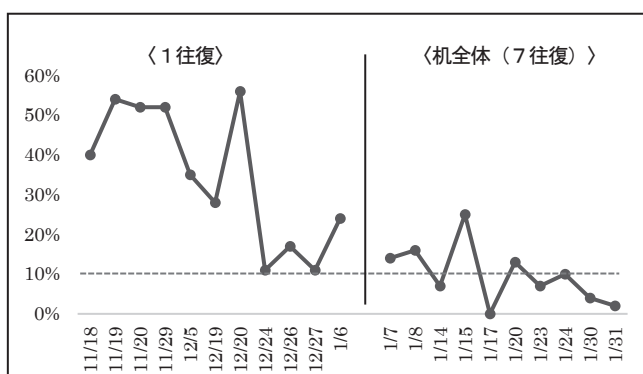


図5 プロンプト数 (%)

4 「壁タイルを拭く」スキルの獲得

はじめは、左から右方向へ拭き、雑巾の幅分下におろし、そのまま左方向へ拭くやり方をしていたが、壁タイルの幅が広く、どこまで進んだらよいのかが分からなくなってしまうので (図6)、机と同じように、上下で移動させる拭き方を目指した (図7)。



図7 上下間で移動させる拭き方を目指した

今回の壁タイルは、机に比べて拭く面積が広いので、範囲を決めて、徐々に広げていくやり方をした。

強化子やトークンエコノミー法など、机と同じ手順で行った。訓練期間は約1ヶ月 (6日間)。試行回数は44回。

結果、約4日の訓練で壁を拭くスキルを身に付けることができたので、残りの2日でトイレのポンプやトイレトーパーなど、物がある場所でも拭けるように訓練していった。

5 その後

引き続き、廊下や階段、玄関、トイレなどの掃除を行っていき、本人も清掃について少しずつ自信をつけていった。約1年後、エル・チャレンジから清掃の実習のお話をいただき、そこで、公園での掃き掃除やトイレ掃除などの訓練を1年間行い、清掃会社で就職することができた。

現在は、就労定着支援を利用しながら、毎日がんばって働いている。

6 考察

今回、課題分析をしてスモールステップで行い、「出来たら強化」することを続けていくことにより、少しずつスキルを獲得していったと思われる。また、課題分析することにより、どんなところでつまづいているのかが大変よく分かり、具体的な支援方法を取り入れることができた。エラーレスを心がけたことで、本人のモチベーションも上がっていき、最終的に就労につながったと思われる。

【注釈】

- 1) エル・チャレンジ 大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合が運営。大阪府や大阪市から清掃業務を請け負い、知的障害のある方の実習を受け入れ、訓練を行っている。